

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2170300269		
法人名	医療法人 智盛会		
事業所名	グループホーム 桃の香		
所在地	岐阜県美濃市もみじヶ丘2丁目45番地		
自己評価作成日	平成23年9月29日	評価結果市町村受理日	平成23年12月28日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kai.gokouhyou.jp/kai/gosip/inforat/onPublic.do?JCD=2170300269&SOC=320&POD=21
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 旅人とたいようの会
所在地	岐阜県大垣市伝馬町110番地
訪問調査日	平成23年11月24日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

その人らしい生活を送れるように援助・努力している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

管理者と職員は誠意・和・創意を大切にして連携を良くし、利用者に気長に寄り添いながら思いを把握している。こども110番の認定を受けたり、家族からの申し出により、他の利用者も一緒になって、沢山の「豆むき」を手伝う等、地域に根差した支援を心掛けている。また管理者はじめ職員は常に創意工夫を重ね、日常生活や緊急時、重度化の対応についても向上心を持って取り組んでいる。利用者の尊厳を大切に、繰り返し同じ話にも遮ることなく向かい合っ、耳を傾けている。『ダメ』や『～してはいけない』等の言葉を使わないように、言葉掛けに気をつけている。利用者のちょっとした動作から、口中を確認しての食事介助を行い誤嚥を防ぐ等、きめ細かいケアをしている。視覚障がいの人には、食膳の食器位置を決め、自分で食べる楽しみを支援している。
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念に基づき、その人なりの生活を重点におき、共に共有できるよう心掛けている。	管理者および職員は、事業所独自の理念を共有し、利用者への礼儀や尊敬の気持ちを大切にしながら、利用者のペースに寄り添った支援をしている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	ボランティア等が当施設へ訪問して頂ける場合、掲示板やポスターなどを貼り、地域の方たちと交流が図れるようにしている。	こども110番の認定を受け、地域との活発な交流に努力している。近隣の団地からはボランティア訪問があり、小学校からは招かれて、発表会やゲームに参加している。隣接のデイサービスと共催のパーベキューや演劇団の来訪時には、地域の人にも参加を呼びかけている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	キャリアパスに伴い、商店街で説明会を開き地域交流に繋がれるようにしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営委員の要望・評価を元に、より実践に繋がるよう会議などで話あいをしている。	意見や要望を家族会代表が伝え、改善に活かしている。運営推進会議メンバーの働きかけにより、学校から「こども110番」の認定を受けたり、「救急車搬送依頼書」を作り、緊急時の備えと日々の安心に繋げている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	担当者と確認を取りながら、より高いサービスを提供できるよう常にとりくんでいる。	市町村とは、介護保険制度の確認や入居待ち状況、その他の情報連絡を取りあっている。市内での高齢化を受け、ユニット増床の可能性についての相談を受けることもある。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	攻撃的な入居者であっても職員は、「だめ、いけない」など否定的な対応はせず、関わりをもちその人に付き添い窓は開放状態ではあるが、玄関にまでは行き着いてはいないのが現状である。	大学の講師による研修会を実施し、職員は身体拘束による弊害を理解している。対応困難な利用者にも、無理な制止はせずに、和む言葉掛けで寄り添う職員の努力で、穏やかに過ごせるようにしている。しかし、玄関については、日中の施錠がされている。	玄関の施錠について、職員間で話し合い、鍵をかけないケアについての工夫に期待したい。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修会后、職員各々が意識を持ち利用者との関係性を高め、関わりが深くなれば自ずと虐待に繋がらないようになってくることを理解してきている。		

グループホーム 桃の香

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者が成年後見人の研修会に参加し、資料などを持ち帰り職員に理解を促し、個々の関係性を深め、日常生活の中で活用出来る様に努めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時家族を交え、納得されるまで説明し十分理解できた時点で、職員は入居者様の特性や嗜好品を聞きできるだけそれに近づけるよう努力している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	隔月の運営委員会で、民生委員の方や利用者家族様方々の意見・要望を反映できるように努めている。	家族が訪問の機会には、職員から意見や要望を聞くようにしている。家族からの意見を代表から伝えられることもあり、職員の顔と名前が判るように掲示し、運営に活かしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月2回会議やミーティングをし、その都度意見交換しながら話し合った内容を実践し、変更したり継続したりしながら常に最適を求めている。	職員からの提案を受け、仕事の流れや分担を職員間で話し合って改善している。言葉掛けやトイレ介助について、また会議録の書き方など、管理者は職員の意見を取り入れて、向上を目指している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職場環境、条件など必要に応じ代表者、管理者が話し合い職員の安心、安定に繋がるように心掛けている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	個々の向上に努める為、個人が研修希望しているプログラムがあれば参加を促し、疑問や質問があれば管理者が資料を作ったりしてレベルUPに繋がるように支援している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	運営委員に他G.Hの管理者が参加しており、情報の共有を図っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	不安の解消に努め、安心して生活できる環境作りを心掛けている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居時、面会時家族に情報を提供して頂き要望や様々な関係性が築けるよう努力しながら互いの不安等を解消できるようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	情報を元に、なるべく早い時点でサービスを提供できるよう支援できる体制を整えている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	24時間体制のため、切れ目なく入居者様と関われるため、本人の不安等の解消に役立て、よきパートナーとして関係性を深めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	年数回家族会を実施し、本人と家族、家族と本人の関係性を深め互いに信頼性を高めたいけるよう支援している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	通常あまり会えない親戚や友人が面会に見えた場合、入居時ご家族に説明しこの様な場合の許可を頂いているため安心して面会できるようにしている。	家族が宿泊したり、自宅近所の人への訪問もある。また希望に応じて、馴染みの場所へ桜や紅葉の見物に行っている。家族への電話掛けを勧めたり、毎年、年賀状書きも支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者と入居者の間に職員が常に入居状況を作って輪を崩さないように状況を把握しながら関わっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	ケアマネージャーやふれあい通信などで入居者の近況を報告して日頃の過ごし方などを家族は把握しやすい状況を作っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	基本方針に従い、その方に添った過ごしやすい環境作りを心掛けている。	日常のしぐさ等に注目しながら、利用者に気長に寄り添うケアで、希望や思いの把握に努めている。また職員のミーティングでも話し合っている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	居室内に自宅で使用していた家具、調度品を持ち込み見慣れた風景により近い状況にし、その人らしい生活ができるようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	職員は生活歴や特性をいち早く理解し、その人なりの安定した生活を送れるよう努力している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケアマネージャーが立案したプランに対し、担当職員がその都度状況をケアマネージャーに相談し計画を変更・再立案しなおして、その人にあったプランを構築している。	ケアマネージャーを中心に、利用者・家族・担当者で計画を立案している。また状況の変化時には、家族とも話し合い、見直し・再立案している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	フォーカスチャータリングを採用し、時間の短縮および記入の簡略化により、入居者と関わる時間を少しでも多く取れることに目標をおいている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	一人一人性格が違うように職員も考え方が違うため、自らの拘りを捨て幅広くオールラウンドに対応できるように会議等で管理者が説明を促し理解するように働きかけている。		

グループホーム 桃の香

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	職員の関わり一つで心の安定が違う為、常にその人なりの心身の安定・特性を引き出せるように心掛けている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	隔週で主治医の往診があり、職員が入居者様の体調管理をし状態に合わせて看護師に報告して主治医に申し送り、その都度指示されたことを実行している。	ほぼ全員の在宅時かかりつけ医が、事業所の提携医である。希望する整形外科受診時は、家族が同行する。事業所での様子を受診のことを、事業所から提携医に伝え、医師から整形外科へ状況をファックス連絡している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	上記同様、看護師は常に状態の把握をし、必要に応じ主治医に報告その都度変更指示を受けるようにしている。(往診時でない場合、主治医に連絡を取り指示を受けている)		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	地域連携が確率されている為、総合病院ケースワーカーや訪問看護施設との情報交換を行なっている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	高齢化していく中で、緊急を要する状況に陥った場合のために書類を作成し、家族に同意を受けている。	入居時に利用者や家族に、宿泊が可能なことや、出来るだけの支援をすることを伝えている。緊急時や重度化した時は入院を勧め、終末期については、事業所の方針として、対応が出来ないことを伝えている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急対応時、即バイタルサインを実施し主治医に連絡、状態により救急搬送を依頼するようになっている。尚、消防署主催の「普通救命」の認定講習を受けるためG、H職員全員に通達をしたばかりである。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回消防訓練を行ない、1回は立ち入り訓練を実施し指導を受け職員の身につくようにし、G、HではIHであり火災を起こすことは基本的にはないが、起こりうる可能性がある為、今後スプリンクラーを設置予定である。	全職員が普通救命講習を受けている。同一敷地内にあるデイサービスと一緒に消防訓練は行っているが、事業所単独での夜間想定訓練は行っていない。	事業所単独の夜間想定訓練を行い、問題点を全員で話し合い、予想できない多くの災害に対して、地域との協力体制を作って欲しい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員一人ひとりが自覚を持ち、プロとして自らの立場を理解し入居者様と関わっており、尊敬、尊重を重んじて接するようにしている。	利用者が同じ話を繰り返しても遮ることをせず、向かい合っきちんと聞いている。行動障がいの人に対して、「ダメ」や、「～してはいけない」等を使わず、気持ちを尊重する言葉掛けをしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	年齢を積み重ねてきているため、表情が分かりにくくなってはきているが、常に関わっている為少しの表情の変化でなにをしたいのか、どうしたいのか、どうして欲しいのかが徐々に理解出来る様になってきている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	上記同様少しずつ表情の変化、行動によりどうしたいのかが理解できるようになってきている為表情が険しかった入居者様も穏やかになってきている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	起床後愛用の服に着替えてもらい、その方の表情を見ると笑顔があり、喜んでいる顔を見るのが職員の一つの活力になっている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	現在も入居者様が満足できるような料理を心掛けており、料理の際も手伝える入居者様には手伝って頂き、一つでも多くの楽しみを増やしていけるようにしている。	豆のさや取り・机拭き等、その人の力を活かしている。視覚障がいの人には食膳の食器の置く位置を決めて、自分で食事が出来る喜びを支援している。嫌いな食材も形を変えて食べられるようにしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	年齢により食事摂取量が低下してきている入居者様が増えてきているが、主治医往診時検査し、結果が出た時点で指示を貰い看護師や介護職員が実施するようにしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアを行っており、口腔内の清潔保持に努めている。		

グループホーム 桃の香

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	入居時オムツをしていた入居者様も時間を決めてトイレ誘導するようになり、オムツを外せるようになっており、現在ではパットも汚染することが少なくなっている。	排便の詳細なチェック表等、個別の排泄表によりトイレ誘導し、夜間もトイレ誘導介助をしている。車椅子の人も昼間は介助により、トイレを利用し、おむつでの排泄を減らし、皮膚症状が改善した。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘が3日すぎた時点で整腸剤や下剤等を使用し、排便を促すようにしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	好きな時間に入浴可能であり、好みの入浴剤も使用しているが気分的に拒否される方は時間を空けて再度入浴を促し入浴していただいている。	希望する時間や曜日の入浴が出来る。車椅子の人も2人介助で浴槽の湯につかり、ゆったりとした気分を味わってもらっている。入浴気分がすすまない人には、ゆず湯や入浴剤を替えて勧めている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	睡眠導入剤等の使用をしないため、昼間は起きて頂いている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	主治医指示で薬の増減があった場合、注意深く状態の変化を見逃さないようにし、異常があればすぐ管理者(看護師)もしくは主治医に報告しその都度対応している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	デイサービスのレクリエーションに参加したり、時期により散歩をしたり気分転換を促している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	上記同様時期に合わせ散歩やドライブをして季節感を味わい、気分転換を図っている。	天気が良ければ近所を散歩している。公園に紅葉狩りに行ったり、花菖蒲見物に行っている。外出機会の少ない利用者の為に、演劇一座を呼んで観劇の機会を持ち、近隣の人の参加も呼びかけ、外出気分を味わってもらっている。	

グループホーム 桃の香

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現金は個人では持たず管理しているが、今後買い物レクリエーションなどを行えるように出来ればと考慮している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話などは希望があれば自由に掛けられ、手紙等は毎年年賀状を書いたり制限をしていない。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	常に四季を通じ換気をし空気の入替えを行い、気分転換を促している。	共用空間には、地元特産の和紙による照明具を使い、畳コーナーを作り、くつろげる工夫をしている。エアコンの下や洗面所、畳コーナーに濡れタオルを掛けて、乾燥を防止している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	職員から見てもリビングや畳の部屋を利用し皆さんが談笑している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅で使用していた家具調度品などを持ち込んで居室を飾り、自宅にいるような雰囲気作りをしており、より居心地のよい環境作りをしている。	利用者の部屋には、自宅から持参した筆筒やソファ、鏡等が置いてある。位牌を持参して花を供え、自宅での生活習慣の継続が出来る支援もしている。視力障がいの人には、ドアの取っ手にリボン巻き、手触りから、自室を確認出来るようにしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	入居者様の中に目の見えない方がおみえになるため、居室入り口に布などで触れれば分かるように目印を付けたりしている。		